麗澤大学研究データポリシー

2026 年 10 月 7 日 施行

麗澤大学（以下「本学」という。）は、「知徳一体」の建学の精神のもと、学術研究を通じて社会の発展に貢献することを使命としている。

研究活動により収集又は生成される研究データは、研究成果を支える重要な学術資産であり、適切に管理するとともに、可能な限り公開及び利活用を推進することは、研究の信頼性及び透明性の確保、学術の発展並びに社会への還元に資するものである。

本学は、「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」（令和 3 年 4 月 27 日統合イノベーション戦略推進会議）等を踏まえ、本ポリシーを定め、研究データの適切な管理、保存、公開及び利活用を推進する。

1　目的

本ポリシーは、本学における研究データの適切な管理に関する基本的な方針を定め、研究活動の健全な発展及び学術研究の推進に資することを目的とする。

2　研究データの定義

本ポリシーにおける研究データとは、本学における研究活動の過程又は結果として収集、生成若しくは取得された情報をいい、その媒体がデジタル又は非デジタルであるかを問わない。

3　研究者の責務

本学において研究活動に従事する教職員、研究員、大学院生その他の研究に携わる者（以下「研究者」という。）は、研究データについて、法令、契約、学内規程、研究倫理、研究分野の特性並びに資金配分機関等の定めを踏まえて適切に判断し、責任をもって管理するものとする。

4　研究データの公開及び利活用

研究者は、研究データについて、研究分野の特性を踏まえつつ、可能な限り公開及び利活用を推進するものとする。ただし、個人情報、機微情報、知的財産権、営業秘密、安全保障輸出管理、共同研究契約その他法令又は契約上の制約により公開が適当でない場合は、この限りでない。

5　本学の責務

本学は、研究者による研究データの適切な管理を支援するため、必要な環境の整備及び支援体制の充実に努める。また、本学は、研究データ管理に関する社会情勢、学術動向及び法令等の変更を踏まえ、本ポリシーを必要に応じて見直すものとする。